

文化大革命と墨侠精神、阿Qの今を考える

前田年昭 tmaeda@linelabo.com

PARC 自由学校「あらたな東アジア像をもとめて」第6回（2007年7月17日）

1. 墨家の発見
2. 阿Q階級とは誰か
3. 革命＝メシを食うこと
4. 文化大革命という都市革命
5. 復讐の権限ということ
6. 映画『墨攻』批判
7. 死者の声に

1. 墨家の発見

◎墨子 (B.C.468 ～ B.C.376)

「世の顯学は儒墨なり」 韓非子

…戦国時代に孔子の弟子たち（儒家）と対峙，天下の思想界を二分

非攻、非楽、節用、節葬

三表

◎孔子の「仁」から出発したが、工商業者・市民社会の思想として発展

→「天下の賤人」たる工人を教育，組織した。

工匠階級：商人とともに農民より下位＝社会の最下層

叛乱、解放のイデオロギー、戦国時代に 200 年存続

◎清朝考証学

明末という時代

奴変の歴史

奴婢、奴僕の分

◎墨家は滅んでのち、その思想は「墨侠」と呼ばれる遊俠集団にうけつがれた

その社会的基盤は最下層の遊民

現代の中国遊民無産階級の心に墨家の思想が生きつづけていたからこそ、かれらは毛沢東に共鳴し、宗教的にまで帰依した

◎イデオロギーとしての毛沢東思想は墨家思想の 20 世紀における蘇生

- 近代西欧の個人主義やアナキズム、マルクス主義から出発して「大同」を主張
- 社会の最下層の遊民、外村人、工人階級を教育、組織し、強力な解放軍
- とともに「防禦」から出発する弱者のための軍事論

◎高田淳『墨子（中国古典新書）』明徳出版社、1967

◎高田淳『中国の近代と儒教』紀伊國屋書店、1981

◎増淵龍夫「墨侠」（『新版 中国古代の社会と国家』岩波書店、1996、所収）

2. 阿Q階級とは誰か

- (1) 農だけでは食えない
家がない、農具を持たない
- (2) 有力な親類を持たない→流れ者
姓がはっきりしない ↔ cf. 日本の地縁共同体、村八分
村落共同体は存在したのか？ 村、村人、村の境界がない
- (3) 結婚できない→子孫を持たない
売買婚
貧農・雇農、中農、富農、地主
- (4) 文盲である
- (5) 畸形的精神→他者との結びつきをもたない

「兵」

◎人口の変化

1403	6659.8	
1602	5630.5	
1741	14341.1	清朝で増加？
1794	31328.1	人口大爆発！ 1662-1820
1834	40100.8	
1909-11	36814.6	
1934	46340.0	
1949	54167.0	

◎魯迅『阿Q正伝』〔竹内好訳、岩波文庫、1981〕

◎片山智行『魯迅のリアリズム』三一書房、1985

3. 革命 = メシを食うこと

◎毛沢東と中国共産党－紅軍による中国革命

- 国内「難民」としてもっとも卑しまれ蔑まれた遊民を「兵」として訓練
- 社会でもっとも尊敬される人間類型として組織
- 人民公社をつくって食えるようにした

◎人民公社の「五保」

食料、衣服、燃料、教育費、葬式の費用の五つを保障

◎毛沢東「中国社会各階級の分析」「湖南省農民運動の視察報告」

(『毛沢東著作選』外文出版社、1967、所収)

◎福本勝清『中国革命を駆け抜けたアウトローたち』中公新書、1998

4. 文化大革命という都市革命

◎抑圧され権利を奪われていた者の情念

政治的抑圧と経済的抑圧 ←抑圧のあるところに反抗あり

「紅五類」＝ ①労働者、②貧農・下層中農、③革命幹部、④革命軍人、⑤革命烈士軍属

「黒五類」＝ ①旧地主、②旧富農、③反動分子、④悪質分子、⑤右派分子

血統主義原理によって拡大された規定

歴史的な皇帝下の官僚制という伝統＋社会主義国家官僚制

◎【…階級と呼ばれるのは、歴史的に規定された社会的生産の体制のなかで占めるその地位が、生産手段に対するその関係(中略)が、社会的労働組織のなかでの役割が、したがって、彼らが自由にしうる社会的富の分け前を受けとる方法と分け前の大きさが、他とちがう人々の大きな集団である。階級とは、一定の社会経済制度のなかで占めるその地位がちがうことによって、そのうちの一方が他方の労働をわがものとすることができるような、人間の集団を言うのである。／階級を完全に廃絶するには、搾取者、すなわち地主と資本家を打倒する必要があるばかりでなく、彼らの所有を廃止する必要があるばかりでなく、さらに、生産手段のあらゆる私的所有を廃止する必要がある、都市と農村の区別をも、肉体労働者と精神労働者の区別をも廃止する必要がある。これは、長い年月を要する事業である。これをなしとげるには、生産力の発展における巨大な進歩が必要であり、小規模生産の数多くの残存物の抵抗(中略)を克服する必要がある、またこれらの残存物と結びついた習慣と因習との巨大な力を克服する必要がある。】レーニン『偉大な創意』1919

◎紅衛兵の乱

◎教育革命

◎はだしの医者

◎津村喬『魂にふれる革命』ライン出版、1970

◎山田慶児『未来への問い』筑摩書房、1968

◎加々美光行『歴史のなかの中国文化大革命』岩波現代文庫、2001

5. 復讐の権限ということ

◎文革は復讐の噴出

「朋友」

情念の蓄積の条件としての「復讐禁止」

中国で復讐禁止のための全国的な刑法は文革後

◎日本の明治維新との対比

近代以前、封建制下に復讐（敵討ち）は普遍的権利

「忠臣蔵」「曾我物語」

復讐は宇宙の理法にかなった、崇高な行い（穂積陳重『復讐と法律』1931）

1873（明治6）年2月7日太政官布達第三十七号（江藤新平 1834-1874）

「旧習ニ泥ミテ擅ニ人ヲ刺殺スルモノハ相当ノ罪科ニ処スベシ」

◎近年の日本における悪い奴は吊るせ！即刻死刑に！という主張

民事不介入は反権力運動の永きたたかひの歴史によってかちとられてきた

国家権力による復讐の代行

◎加々美光行『漂泊中国 転換期アジア社会主義論』田畑書店、1988

◎新島淳良・加々美光行『はるかより闇来つつあり』田畑書店、1990

◎『復讐 書物の王国 16』国書刊行会、2000

6. 映画『墨攻』批判

◎映画『墨攻』が公開された。私たちの前にいま、酒見賢一の小説（1991 新潮社、1994 新潮文庫）、森秀樹のコミック（1992-96、ビッグコミックス）、山本甲士のノベライズ（2007、小学館）、そして映画（2006）と四つの『墨攻』が存在する。いずれもフィクションだと公言しており、私の批判は史実に反するかどうかという批判ではない。

- 酒見賢一『墨攻』

<http://www.bk1.co.jp/product/1065714>

- 森秀樹『墨攻』

<http://www.bk1.co.jp/product/1979383>

- 山本甲士『墨攻』

<http://www.bk1.co.jp/product/2739641>

- 映画『墨攻』公式サイト

<http://www.bokkou.jp/>

◎結論を先取りして言えば、前の三つはそれぞれに面白いが、映画はその面白さを“殺して”しまっているように私は思う。しかも、それは墨子と墨家集団の精神について、また、戦争について、相対立する二つの見方考え方の対立を反映しているように思えるのだ。

(1) 映画が描き出した主題は「戦争と平和」である。主人公は人（敵兵）を殺すことについて悩み続ける。戦闘場面の描写では、侵略してきた趙の軍の行動より守る梁の側の軍民の行動がむしろ残酷であり、南門の攻防と死者への鎮魂に流れている気分は戦争反対、正確に言えば厭戦である。

しかし、前の三つの主題は侵略（戦争）に対する抵抗（戦争）である。けっして戦争反対ではない。

(2) 映画が描き出した民衆は、王や貴族の権力争いに巻き込まれ、ひどいめに遭いつづけ、無力であわれな、救済対象としての民衆である。

しかし、前の三つに出てくる民衆はちがう。抵抗と防衛の大義に目覚めるや、結束して大きな力を発揮する。歴史の主人公である。

(3) 墨家の原点たる墨侠精神を体現する主人公・革離は、梁王と梁の防衛についての「契約」をかわすにあたって、指揮権のすべてを与えること、王の側の女性たちをも例外なく組織編制に組み入れることを絶対的条件として要求し、これを認めさせた。

しかし、ひとり映画のみが、王の側の女性たちは編成に組み入れられず、逸悦が率いる精驥馬隊は革離の指揮下に入らなかったことになっているのはなぜか。

(4) 革離は梁の人々にとってみればよそものでしかない。彼が何ゆえ城主梁溪や貴族の嫉妬やねたみ（本質的には恐怖である）を招くまでに人心をつかみ、人々を団結させ得たのか。

革離が自らの刀で腕を切ってみせ、「私の血を吸った土地を私は全力で守る」「降伏すればたとえ肉体的生命が保ちえたとしても奴隷と陵辱しかない」と軍民を前に演説し、人々を決起させる場面があるが、この場面がひとり映画のみ欠落しているのはなぜか。

◎歪曲と改竄はまだまだあるが、ここにある対立は、四つの物語の四つの個性ではけっしてない。ひとり映画版『墨攻』のみが、偽善的でふやけた「戦争と平和」の、ハリウッド流の、欧米「人道主義」の軍門にくだった立場に立っていることを示している。ひとり映画版『墨攻』のみが、墨家思想と墨侠精神を裏切り、ふみにじっている。私はそう思う。

◎現代中国に毛沢東と中国共産党は墨家思想と墨侠精神を復興し、中国革命と文化大革命をはじめた。その毛沢東と中国共産党の軍隊であった人民解放軍のふたつの軍区がこの映画版『墨攻』に協力している事実は、中国の「党」と「軍」もまた、毛沢東死後、墨侠精神を裏切り毛沢東思想を否定してしまったことを事実で証明している。

7. 死者の声に

◎「打不平」= 天に代わりて不義を討つことは、
墨家から毛沢東へ、さらに第二、第三の中国革命－文化大革命へ

◎前田年昭「文革論『滴水洞』」（書庫：日本文化大革命 40 周年を記念する）
<http://www.linelabo.com/index007.htm>

◎文化大革命四十周年
<http://www.singtaonet.com/global/wg/default.html>

◎文革四十周年
<http://www.singtaonet.com:82/culture/wg/default.html>

◎中國最大の紅衛兵墓群
http://www.singtaonet.com:82/pic/pic_culture/t20061024_371067.html